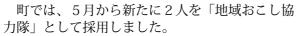
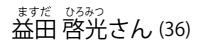
地域おこし協力隊

~新たに2人を採用~



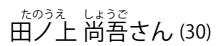
隊員は、地域や町と連携しながら、交流人口の 拡大や、地域資源の発掘・情報発信に取り組んで いきます。



はじめまして!5月から地域おこし協力隊に着任した 益田啓光です。

ギターの弾語りが趣味の熊本出身です。今年の3月ま での半年間、事業承継や移住に関する仕事で長島を11 回訪問し、76泊している間にすっかり長島に魅せられて しまい、4月に会社を辞め、長島町地域おこし協力隊に 応募しました。

「事業者の採用支援」、「空き家管理事業」の2つを基 礎としながら、元長島住民の U ターンや他地域からの移 住者に対して、仕事と家を提供できる体制を作るのが私 の役目です。坊主でメガネの見慣れない半ズボンを見か けたら「お!髪切った?」と気軽に声をかけてください! よろしくお願いします!



5月から地域おこし協力隊に着任しました田ノ上尚吾 です。

出身はいちき串木野市で、学生時代は長距離選手とし て駅伝など走っていました。

スポーツを通して長島町へ人を呼び込みたく、総合運 動公園計画もあるので施設を活用した陸上合宿の誘致を していきたいと思います。

私自身も、長島一周駅伝、県下一周駅伝など目指して 頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。



第4回「島TECH」を開催

5月3日から7日の5日間にかけて4回目と なる「島TECH」が開催されました。

「島TECH」では高校生が長島町の事業者宅 にホームステイし、その事業者が抱えている課題 を高校生ならではのアイデアで解決し、それを形 にするまでをやり抜きます。

今回は、まるしょう水産(白瀬・赤嵜昭吾代表) の協力をもらい、参加した高校生らが、まるしょ う水産の Web サイトを作成しました。

○今回、作成したまるしょう水産のWebサイト http://nagashimaya-marushou.site/



町内の中高生を募集

~探求型キャリア教育プログラム「SOCIAL CHANGE」~

長島大陸Nセンターでは、株式会社教育と探 求社(東京都)と提携し、長島町内の中学生、高 校生を対象にした探求型キャリア教育プログラム 「SOCIAL CHANGE」を開催します。

このプログラムでは、参加する中高生が自ら課 題を発見し、仲間と共に解決策を考えることを楽 しみながら体験。21世紀に必要とされる「対話 による課題解決」を学ぶプログラムです。

今年の夏休みは、長島大陸Nセンターで仲間と 一緒に過ごしてみませんか?皆さんの応募をお待 ちしています。

○開催日

8月21日(月)・22日(火)の2日間

○開催場所

長島大陸 N センター

- ○参加費 800円(2日目の昼食代)
- ○参加資格•定員

長島町内の中学生、高校生・30人

○申し込み方法

http://ncenter-nagashima.com/socialchange/

- ○申込締切 7月31日(月)
- ◎問い合わせ先

役場総務課地方創生 ☎(86)1111「代表]

辻調理師専門学校が特別講演

5月6日、長島町と「食による地方創生の包括 連携協定」を締結している辻調理師専門学校(大 阪府)の、尾藤環企画部長兼産学連携教育推進 室長が、今後の長島町との取組みや、世界の変化 し続ける美食の価値について特別公演を行いまし

世界の食事情を知る約14万人の卒業生ネット ワークを持つ同校の、普段はなかなか聞くことが ない話に、参加した町内外の学生、生産者、主婦、 事業経営者らは興味深く耳を傾け、さまざまな意 見交換が行われていました。



↑変化し続ける美食の価値について講演する尾堂氏

新たなサービスで外国人観光客との文化交流を図る

5月13日から14日と、20日から21日の2 回にわたって、外国人観光客10人が長島町の暮 らしを体験するツアーに参加し、長島の自然と町 民とのふれあいを楽しみました。

このツアーは、外国人観光客と地元の人が文化 交流できる場を提供することで、過疎の問題の解 決を図る新たなサービス「Tabimart」を活用して 実現されました。

「Tabimart」は、2006年にノーベル平和賞を 受賞したムハマド・ユヌス博士が審査を行う「ユ ヌス&ソーシャルビジネスデザインコンテスト| (九州大学ユヌス&椎木ソーシャルビジネス研究 センター主催)で、今年優勝した新しいビジネス プランです。

今回のツアーに参加したオーストラリア・中国・ インド・韓国・イギリス・ハンガリーなどさまざ

な国の人が長島の赤土ジャガイモの掘り取りや、 養殖場の見学・釣り体験などを楽しみ、交流会を かねたバーベキューでは、地元の子どもたちも参 加し、英語での会話に挑んでいました。





↑さまざまな体験プログラムを楽しむ外国人観光客ら